



「心に留めよ」(元旦礼拝説教)

出エジプト記20章8〜11節

牧師 安藤 脩

「昨年(2013年)の終わりに、「初心にもどって」と言いました。伝道者としての初心、神

の民としての初心。それは、神様に選ばれ、愛されているということに自覚することです。そして示された今年の標語聖句が「安息日を心に留め、これを聖別せよ。」(出エジプト20章8節)でした。これは神の民のスタートに当たって、神が示された聖句です。

「主はアブラムに言われた。『あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める、祝福の源となるように。』」(創世記12:1〜2)とあります。人間の知恵が造り出した文明。そこに神は現代に繋がる滅びを見ていました。そ

2014年春号

日本キリスト教団
 横浜岡村教会
 〒235-0021
 横浜市磯子区
 岡村 4-25-39
 TEL.045(751)3917
 牧師 安藤 脩

の滅びへ向かう人間中心の世界から離れよと、神は呼びかけるのです。信仰の父と呼ばれるアブラハムは旅立ちました。神の愛を信じ、神の言葉に生きる決意をして。それが信仰です。

神の民としてのスタートは、イスラエル民族の出エジプトです。神はアブラハムの子孫、イサク、ヤコブ、そしてその子らが民族として成長するまで待つておられました。彼らは、エジプトに代表されるこの世からの脱出の時を正月としました。それは彼らにとって、天地の造り主を神として崇め、その御言葉を信じる神の民として歩もうとの決意、初心に返ることでした。神はアブラハムをして、滅びではなく、命を育む本来の姿の人間の交わり、民族を造ろうとしておられるのです。人は交わりをするように形造られていきます。一人ではつまりません。私にとっても「神の愛を信じ、神の言葉に生きる」ことが、初心に戻るとい

ことです。そして、神の民としてのクリスチャンはすでにこのスタートを切った人であります。

今日、元旦礼拝だけだったので、車での送迎をしました。破魔矢を持って天神さんから帰ってくる人々に出会いました。彼らもまた、新しいスタートに当たって、祝福を願ったのでしょう。武家の社会で正月に弓の技を試す「射礼」というものがありました。それは浜で行ったもののようにです。その弓を浜弓、矢を浜矢と呼びました。そしてその後、正月に、男の子のいる家に弓矢を玩具として贈る習慣が生まれました。それは一年の幸運を射止めるという縁起物でした。その矢が神社で正月に買い求める、語呂合わせの破魔矢なのです。偶像礼拝の祝福の考え方がここに現れています。家内安全、商売繁盛といった願いは、悪き霊を払い除けることだという考え方です。

しかし、私たちは天地を創造された主・全能なる神を信じる者たちです。神の民がこの世なるエジプトから脱出した時を正月としたように、新しい年の出発に初心に帰ることはふさわしいことです。そしてそれは、主のみ言葉に信頼し、それを守ることです。

証し

洗礼を受けて

大塚 八千代



私とキリスト教の繋がり、小学校低学年の日曜学校に友達から誘われた事で始まりました。学校より心地よく楽しいものでした。親を離れ上京した所にも、近くに教会があり、私は学校で孤立していた時、よく教会で知った神様に話しかけていた自分を思い出しました。東京では、数回しか行かず、仕事をしてきました。家族が出来、共働きで生活してきましたが、主人の会社がなくなる話が聞こえてきた頃から家族内での愛情の裏切り、信頼の絆の裏切りで、家族の崩壊が我が家に忍び込んできました。私は人と争うのが嫌いで、横浜に移ってきました。今後の生活経済と、子供たちは進路途中で、協議は長く続きました。家の中も、子供たちの受けられる愛情も荒れ放題でした。でも、私は、仕事に明け暮れる毎日、何年も過ぎました。私は、自活自営するため計画を立てました。助け人は増えましたが、私はお金を払うだけで、何一つ改善はされてない事にきずきました。私はニセ者に囲まれていたのです。

私の生活は精神的な安らぎの場所も時間もありませんでした。私は、本当の信じられる神様、生活立て直しを本気で考えている私の声を聞いて答えてくれる人を求めていました。信じられる神様が居る所、子供の頃、心地よかった教会を、仕事休みの日に探し始めました。いくつか教会を周り、3番目に横浜岡村教会に来る事になりました。屋根の上の十字架は、夜遅い仕事帰り、いつも光っていて、目に留めながらも通り過ぎていました。ある日、案内板を見て、夕拝に目が止まり、これなら私も行けると思い、携帯で問い合わせ、予約をしてすぐに行きました。初対面で、私は教会に来た理由を伝え、讚美の歌に入りました。その讚美は「フットプリント」でした。これは会社の社長の訓示で、語られていた話で、讚美歌だったので驚きました。夕拝は話しやすく心地よい落ち着ける場でした。その後、仕事場では、頭の中に讚美の歌が聞こえ、1日を良い気分でもごせました。次の日曜は、朝から岡村教会での夕拝の歌があざやかに浮かび、その日の夕拝も行きましました。こんな体験は岡村教会だけでした。私は、神様と一緒に居たいと思うほど救いを求め、教会に通い続けました。土曜の早天祈祷会に行った時、気になって「洗

礼を受けたらどうなるのですか？」と牧師に問いました。洗礼について牧師から、聖書の御言葉を通して伝えられた時です。今まで気付かなかったのですが、私の背中から心臓に大きな矢が突き刺さっていた事がわかりました。その矢がすっと抜けて消え、楽に息が出来るようになった実感をしたのです。私は、この教会には、本当の神様がいて、牧師の言葉には力が働いているんだと驚きました。私が、探し求めて来た信じられる神様の存在と人の集まる場所がここにありました。それからは、讚美をするたびに泣けてくるという事ではなく、力強さをもらいました。日曜日に教会に行くのが生活の一部となり、神様との大切な交わりの時間となりました。教会に行きはじめて1年が過ぎていました。そして、昨年12月22日に洗礼を受けました。

今、私の迷える魂の帰る場所が出来た事に本当に感謝しています。問題には真正面から落ち着いて向き合える心構えを頂き、最善となるように祈って乗り越えていこうと思っています。

私の好きな言葉は「神は、愛である」

「あなたがたは地の塩、世の光である」

(マタイ5・13)

「私は、復活であり、命である」です。

証し

数えよ主の恵み

関口 猛



私は、中学2年(1958年)のクリスマスまでに3丁目の横浜岡村教会で、梅沢幸太郎牧師

より洗礼をさずかりました。今考えると、どのような思いから神様を信じ、罪の告白をしたのか良く思い出せません。ただ土曜日の午後牧師と向き合い、一生懸命に罪の告白をした開放感はありません。幼い頃から母に連れられ教会に行っていたことから、素直に当然のようにイエス・キリストを信じ、教会を受入れる準備が植えつけられていたのだと思います。教会学校の生徒達を見ると、過去の自分を見るようではげまされません。高校卒業後、就職し東京に勤務し貿易関係の仕事をしていましたがマンネリを感じ、異動を希望し建設関係に配置転換になり経験のない分野に異動しました。業務の特殊性から長期出張など休む暇もなく約30年、礼拝も欠席が多く、家族にも迷惑をかけておりました。この期間に大きな出来事が二度ありました。一度は、ある長期建設

工事中に大型クレーン(400トン吊)が突風によりなぎ倒され、幅15m、距離150mにわたり各種鉄材が崩れ落ち倒壊させる重大事故をおこしました。当日は早出作業のために約500人の作業員がまだ配置に付いていなかった事が幸いし奇跡的に人的災害ゼロで物損と工程の遅れは有りましたが影響は3週間位で済み、損害は保険求償となりました。この時は、現場で人払いに大声で叫び走り回り、ひたすら「神様おねがいします。お守りください」と祈るばかりでした。二度目は、2007年6月末に会社引退の時期になり連日送別会が重なり体も悲鳴を上げていました。そんなある日、タクシーで帰りに吐きながらも帰宅した際、真っ直ぐ歩けず家族に抱えられて家に入りました。が体調が戻らず、病院に行き入院検査の結果、小脳梗塞と診断されました。梗塞部位に悪条件が重なり、他病院の知見も検討に加える事になり、手術を受けるまで2ヶ月もベッドに寝たままでした。13時間にもおよぶ開頭手術を終え、集中治療室に居る時は幻覚や妄想が多くあり、医師や婦長に構わず妄言を吐き、家族に冷汗をかかせたようです。長い入院期間

中、牧師や教会員の皆様からお見舞いとお祈りを幾度も頂き感謝でした。鎮痛剤のせいとその他の細かい事は余り覚えておりませんが、「神様おねがいします。」とたえず祈っていたことだけは覚えております。そしてその年の12月に無事退院することが出来たのです。会社引退直近に病床に就き回復した時、本当に色々なことを思い起こし毎日聖書を読み、祈ることを習慣にして信仰生活を続けております。貧しい信仰ですが神様はいつも、試練とともに恵みを与えてくださり感謝しています。私の愛唱歌は、新聖歌の「望みも消えゆくまでに」(数えよ主の恵み)です。神様に祈ることを大切にしています。すが、まだ外れる事が多くあります。毎日、夜寝る前に一日の事を思い出し恵まれた事を数えて見ると、こんなにも感謝されれます。これからも静まって感謝する時を持ち、めぐみを受えながら日々歩みたいと願っています。





横浜ろばの店特集

ご挨拶

特定非営利活動法人

レインボータラント舎

代表理事 藤山クニエ

明けましておめでとうございます。
ろばの店もだんだん利用者さんが増え、皆さんで助け合いながらお仕事をしている姿を見る事ができ、大変嬉しく感謝でいっぱいです。

天の神様は、私たち一人一人を「ご自分に似せて理性と道徳をわきまえる不滅の霊を持つもの」として創造された」と聖書にあります。

いろいろな労苦があっても、神様は「あなたは高価で尊い」と言われます。与えられている場所で、毎日感謝して過ごすことを神様は喜ばれます。

2014年も教会という神様の御目が注がれているすばらしい環境の中で、楽しく、そして自分ができることを精一杯やっつけてほしいと思います。

事業所紹介と商品紹介

事業所責任者(所長)の坂本です。

2006年9月開所以来、本年度で8期目を迎えることが出来ました。この間、横浜岡村教会員の方々、三教会の交わりの中や、ご支援いただいている教会の皆様方に、この紙面をお借りし、心より感謝申し上げます。

教会堂の建築が無事終わり、教会を地域に開かれた場所としたいと願い、立ち上げられたのが障がい者地域作業所でした。その中で、一人の保護者の信仰復活と、利用者である息子さんの受洗へと結びついたのは、誠に主のご計画と云うほかありません。これからもこの作業所を通して教会に来られる方々が、キリストに触れ、救いに近づくきっかけになればと、願っております。

現在利用者20名、スタッフ7名で、月曜から金曜まで手芸品の製作や、製菓作りに忙しくそして楽しく仕事をしています。2011年4月、障害者自立支援法に基づく就労支援継続B型事業に移行しましたが、これは生産活動によって得られた収入を工賃として支払うことが、事業の一つの目的です。しかし、ろばの店には、障がいの重い方も多く利用してい

るため、なかなか思うようには収入が増えないのが実情です。それでも、毎日きっちり決まった時間に通ってきて、各自が出来ることを一所懸命取り組んでいる姿は、我々も見習わなくてはと思わされます。

左の写真は、昨年末に行なった「クリスマス感謝会」第1部の礼拝後に会堂にて記念撮影したものです。

このクリスマス会には、利用者全員とその半数ほどの保護者・グループホーム職員が参加しました。ほとんどが未信者の方なので、主のご臨在に触れる良い機会ではなかったかと思えます。





製菓作業の本格稼動のため、2012年5月に製菓作業所『カラフル』を開設しました。クッキーのたくさんの注文や、

次の写真は、毎週火曜日の朝礼時に行なっている「デボーション」の様子です。内容は、讃美歌と聖書交読、そして牧師によるシヨートメッセージ・祈祷です。最初は落ち着かない人もいましたが、繰り返し行なう事で徐々に慣れてきたのか、今では静かに牧師のお話を聞く事ができています。



バザーシーズンなどでも、しっかりと対応することができています。店舗も兼ねていますので、近隣の方々に知っていただき、お客さんを増やすことが、今後の課題かと

思っています。

製菓作業では、食品衛生上安全なお菓子となると、クッキーなどの焼き菓子が中心となってしまいます。そこで、できるだけ良い材料に拘り、「これ美味しい！」と言われる物を作りたいと考えています。左の3種類のクッキーは、ろばの店定番商品です。

北海道産全粒粉とイタリア産アーモンドプードルが美味しさの秘密。⇒



ろばクッキー



アールグレイクッキー

一口大で食べやすいと人気。フェアトレードの紅茶・ココア、そして北海道産薄力粉とよつばバターを使った贅沢な逸品。



ココアクッキー

そのほか、「くるみクッキー」「ジンジャークッキー」「レモンクッキー」「パンプキンクッキー」「さくらクッキー」や、最近ではプリンやスウィートポテトなども作れるようになり、商品のバリエ

ーションも徐々に増えてきました。手芸部門では、羊毛を手で丸めた色とりどりのフェルト玉を作り、紐でつなげたストラップ「いもぴい」「いもびよん」が個性あふれるキャラクターグッズとして、人気商品のひとつとなっています。



このほか刺子布巾作業も1年ほど前からスタートしましたが、担当利用者の集中力には驚かされます。(左の写真) これからも主の恵みが、益々利用者・保護者・スタッフの上に注がれますようお祈りいただければ幸いです。



三教会子ども交わり会

(横浜菊名教会・清水ヶ丘教会・横浜岡村教会)

2月16日(日)、横浜岡村教会に於いて三教会の子ども交わり会が行われました。この2月は例年になく大雪が降り、大きな被害に見舞われました。子どもの集まりはどうなるかと本当に心配しましたが、当日は、なんとか少し雪も解けて子ども達やスタッフの方々が来て下さいました。今回は昨年のアンコールと言う事で稲葉ご夫妻に手品と腹話術をして頂き、楽しいひと時を過ごしました。

2部はホールで各教会の紹介をし合い、交流を深めました。感謝！ 参加者46名



なにが出るかな



かわいいは一ちゃん



みんなそろって！

受洗者お祝い会

1月12日(日)今年度受洗された方々のお祝い会が教会で開かれました。各会より心の籠った祝いの言葉と花束が贈られ、共に主の体の一部とさせて頂けた事に感謝を捧げました。(森田智美姉、大塚八千代姉、高橋トヨノ姉)



おめでとう！



感謝の挨拶



よろしくね！

(トヨノ姉はお姉さまの計報の為、欠席。
香姉が出席して下さいました)

接ぎ木する

安藤 脩

今年は2月に大雪が2回ありました。そのため、8日に計画していた三教会婦人交流会は中止。また、9日のオープン礼拝、信徒研修会も延期いたしました。13年ぶりの記録的大雪でした。

その1週間後、金曜日から降り続いた雪は、気温が高いため後半雨になり、解けるだろうとの予報でした。しかし、重い雪質のぼたん雪は解けることなく、15日(土)まで降り続き、45年ぶりという大雪になりました。この大雪は、多くの災害もたらしましたが、当教会にとっては、新会堂建築記念に植樹した甘夏の木が折れてしまったことです。133個も実を付けていた上に、重い雪が25cmほど降り積もり、その重さに耐えかねたようです。関原姉妹が上手に刈り込んでくださり、木の体裁は保っていますが、脇枝だけで、上に伸びる芯がなくなってしまうました。イエス様が異邦人は接ぎ木された者達であると言いました。それで、小さいころ父が接ぎ木しているのを見ていましたので、見よう見まねで接ぎ木しました。うまく着けば、この記念樹は接ぎ木された木として、教会のシンボルになるなと思います。

アドベント折り紙

森田 智美

10月の定例会で、善枝先生が持って来て下さった本に、イエスさまの生まれた馬小屋の場面の折り方と写真が載っているのを見つけ、素敵だと思いい決めました。クリスマス礼拝の日に馬小屋で眠るイエスさまを飾るように考えて、アドヴェントに入る前の11月から毎週2体ずつ飾れるように折っていきました。作り方を見ると、部分ごとに折り、2つ以上の折り紙を組み合わせて1つが完成するものばかりでした。また、作る物や部分によって折る紙の大きさも違うので、市販の折り紙を使うのではなく模造紙から必要な大きさを切り取るところから始めました。細かい作業や、作り方を見てもわからない、上手く出来ない箇所も多く、苦戦続きでしたが、一方で楽しみでもありました。初めのうちは、馬小屋に居る牛や馬、羊飼いが連れていた羊など、動物ばかりでしたので、見てみるみなさんは、一体何を作っているのだろう？と不思議に思われた事と思います。



12月に入り、羊飼いや博士など人物を飾るようになると、次第にそれらしくなっていく、完成すると、みなさんから「素敵ね！」と声を頂き、嬉しかったです。この折り紙は小さな事ですが、見て下さった方がイエス様の降誕を思い出すきっかけとなれば幸いです。

イブ礼拝に初めて参加して

J C 母 佐藤由美子



「平和を祈るクリスマス」初めての教会でのクリスマスに親子共々とても楽しみにしておりました。プレゼント交換やクイズなどで楽しい時間をみんなで過ごした後、衣裳に着替え、準備万端。心を静め、いつもとは少しちがう緊張の中、ページェントが始まりました。キャンドルの灯りの中、救い主イエス様の降誕の背景がナレージョンと共に始まりました。上級生のお姉さん達の台詞の言い回しや、歌の上手さに心から引き込まれて行きました。一人一人がしっかりと与えられた役をやり遂げた事で、大きな自信となった事でしよう。気の早い娘は、もう次のクリスマス礼拝を楽しみにしております。

キャンドル・サービスに参加して

J C 母 徳重 美晴

クリスマスおめでとうございます。主イエス・キリスト様のご降誕を心よりお祝い致します。今回、初めて教会で行われるクリスマス礼拝に出席させて頂きました。今まで家庭でお祝いしていたクリスマスとは違い、暗い中で讃美歌や、劇、とても厳かな雰囲気の中で行われ、「本物」のクリスマスを経験させて頂く事が出来ました。子供たちによるページェントは、クリスマス礼拝に至るまで、数回練習がありました。娘は都合があわず、なかなか練習に参加する事が出来ませんでした。しかし、皆さんのご理解と、お友達に支えられ、当日は安心して演じる事が出来ていました。みんな、力を出し切っていたと思います。無事終わられた事を感謝します。有難うございました。



いつも子供たちを暖かく見守り、支えて下さっている教会の皆さまに心より感謝致します。今年も幸多い良い年になりますようお祈り申し上げます。

3月～5月行事予定

3月

- 3日 三教会交流牧師家族会
- 16日 役員研修会
- 18日 田崎宅家庭集会
- 19日 三教会統一祈祷課題祈祷会
- 29日 田崎信義・林愛美さん結婚式
- 30日 JC スタッフ・役員任職式

4月

- 13日 棕櫚の主日洗足礼拝
- 14～17日 受難週祈祷会
- 18日 受難日燭火礼拝
- 20日 イースター礼拝、餅つき会
- 22日 田崎宅家庭集会
- 25日 藤山宅家庭祈祷会
- 27日 定期教会総会

5月

- 4日 責任役員任職式
- 6日 関東こころの友伝道講習会(更生)
- 11日 母の日親子礼拝
- 13日 三教会交流委員会(清水ヶ丘)
- 18日 信徒講座開始
- 20日 田崎宅家庭集会
- 29日 主の昇天日
- 30日 藤山宅家庭祈祷会
- (毎月第1主日 聖餐式、役員会)
- (毎月第4主日 各会の定例会)

岡村教会では、彼女の為に1年間の学費をバザーの利益金から、送金していただきます。



ジュリリンさんは、横浜岡村教会のJCが里親になっているフィリッピンの子です。とても活発な元気な子です。



JCの窓
(ジュニアチャーチ)

「ジュリリン・リニャンさんを紹介します」

す。先日、彼女から手作りのクリスマスカードが届きました。私たちも、寄せ書きをして彼女にカードを送りました。このような働きが、皆で心をあわせ、出来ます事に感謝しています。



ジュリリンさんからのクリスマスカード

集会案内

☆イースター(復活日)礼拝

日時・4月20日(日)午前10:30
もちつき大会もあります

☆JC親子礼拝

日時・5月11日(日)午前9:00

☆春のランチオン

日時・6月21日(土)午前10:00
ゲスト・守部喜雅氏

(聖書を読んだサムライたち、サムライ・ウーマン新島八重の著者)

編集後記

今年の2月は記録的な大雪が二度も降り、雪かきで皆さん筋肉痛になったのではないのでしょうか。もう雪は降らないでほしいですね。ようやく2014年の春号が出来上がりました。寄稿していただきました内容も充実しております。これからも良い紙面をお届けしたいと思います。この岡村の泉は、横浜岡村教会のホームページで見れます。(Y・I)

